

第4回自然環境保全基礎調査

生態系総合モニタリング調査報告書

平成6(1994)年3月

環境庁自然保護局
財団法人日本自然保護協会

環境庁請負

第4回自然環境保全基礎調査

生態系総合モニタリング調査報告書

平成6（1994）年3月

環境庁 自然保護局
財団法人 日本自然保護協会

はじめに

本報告書は「平成4年度第4回自然環境保全基礎調査生態系総合モニタリング調査集計・解析業務」の結果をとりまとめたものである。

「生態系総合モニタリング調査」は、4回目を数える環境庁の「自然環境保全基礎調査」の中で、今回はじめて実施された調査である。本調査の特徴は、①生物群集とそれを取り巻く物理的自然環境とからなる地域の生態系を総合的に捉える点、②人間のさまざまな活動に対してその地域の生態系がどのように変動するかを長期的にモニタリングする調査である点、③特定の調査対象地域を1/5,000から1/25,000の大縮尺スケールで捉える点などであり、これまでの自然環境保全基礎調査で実施されてきたおのおの自然構成要素をナショナル・スケールで把握する調査とは異なるものである。また、原生自然環境保全地域など人為的なインパクト強度がきわめて低い原生的な自然環境のモニタリング調査とも目的を異にするものである。

地域の具体的な自然の各種自然構成要素を生態系として総合的に把握しようとする試みは、今日生態学の重大な課題のひとつである。本調査ではさらに地域の自然と人間のさまざまな活動との関係をも捉えようとするものであり、地域の自然環境保全のために今後欠かせない調査となろう。

現段階では調査対象地は全国で5地域のみであるが、今後より多くの地域で実施されることを期待したい。また今回は初回ということで現状の把握にとどまり、時間的な変化を追うことはできなかったが、モニタリング調査の性格上、次回以降長期にわたって継続されることが望まれる。

平成6年3月

財団法人日本自然保護協会
会長 沼田 眞

3-8. 海域生物調査	134
4. 酸性雨に関連する解析	135
4-1. はじめに	135
4-2. 調査結果	136
4-3. 調査結果の評価と今後の課題	140
Ⅲ. 調査方法についての検討	141
1. 検討方法	141
2. 調査の実施状況および全体とりまとめにあたっての問題点	142
2-1. 調査趣旨と調査地設定についての問題点	142
2-2. 生物群集と人為的インパクトの関係についての問題点	143
2-3. 地域生態系の特性と反応を指標する 指標動物調査について	144
3. アンケート調査の実施とその結果について	148
4. 次回調査に向けての課題と提案	151
4-1. 調査方針と調査体制について	151
4-2. 調査の項目と方法について	153
4-3. 調査結果の解析について	155
Ⅳ. まとめ	156
Ⅴ. 参考文献	157
Ⅵ. 参考資料	158
1. (財)日本自然保護協会 「生態系総合モニタリング調査検討委員会」名簿	158
2. 平成3年度生態系総合モニタリング調査要項	159
3. 平成4年度生態系総合モニタリング調査要項	198
4. アンケート調査の質問項目とその回答内容	228

